

# 飯田市 歴研ニュース



News Letter

No. 102

The Iida City Institute  
of Historical Research

2019年10月1日 発行

飯田市歴史研究所

〒395-0803

長野県飯田市鼎下山538

TEL 0265-53-4670

FAX 0265-21-1173

E-mail iihrr@city.iida.nagano.jp



## 第17回飯田市地域史研究集会を開催しました

### 飯田・下伊那の蚕糸業と地域社会



石井寛治氏 講演

9月7日（土）と8日（日）に、第17回飯田市地域史研究集会を飯田市役所で開催しました。市内はもとより市外や県外からも多数ご参加いただきました。

1日目は、飯田・下伊那の蚕糸業をめぐり、二つの講演と一つの報告が行われました。石井寛治氏（東京大学名誉教授）の講演では、日本を代表する蚕糸業地域であった長野県と群馬県を事例に、組合製糸発展の歴史についてお話をいただきました。蚕糸業史研究の到達点を示す講演でした。次に田中雅孝（飯田市歴史研究所）が、明治から

昭和期までの下伊那における蚕糸業の展開について、地域構造との関係や日本資本主義の歴史との関わりから講演を行いました。太田仙一（飯田市歴史研究所）が、飯田・下伊那最大の組合製糸であった天龍社の蚕業技術員に関する研究報告を行いました。以上の講演・報告を踏まえ、最後に全体討論を実施し、蚕糸業史研究の今後について検討しました。

芸能発表では、飯田市立緑ヶ丘中学校合唱部の皆さんに合唱をご披露いただき、会場にさわやかな歌声が広がりました。

2日目はまず、飯田・下伊那に残された蚕糸業にまつわる文化・遺産を学び、これを未来に継承しようとする試みについて二つの報告が行われました。大石真紀子氏（阿智村役場）は、阿智村が全村博物館構想の一環として取り組んだ「お蚕さまプロジェクト」及び「聞き書きプロジェクト」について報告しました。片桐一樹氏（伊那谷自然友の会）は、風穴山・風越山などに現在ものこる風穴とそのメカニズム、また、かつて蚕種の保存に用いられた点について報告を行いました。

次いで、飯田市歴史研究所の研究活動の成果発表として二つの報告を行いました。福村任生（飯田市歴史研究所）は、歴史研究所が所蔵している「建物原簿」という史料を紹介し、戦前の飯田の街並みを考察しました。上河内陽子氏（飯田市歴史研究所市民研究員）は、川路地区から発見された、アジア・太平洋戦争期に出征した兵士たちが故郷に送った軍事郵便を素材とする報告を行いました。



会場内の様子



緑ヶ丘中学校合唱部の皆さん



大石真紀子氏 報告



片桐一樹氏 報告



# 飯田歴研賞2019 受賞者コメント

飯田市歴史研究所では、前年度に発表された飯田・下伊那の地域史研究に関する優れた作品を、歴研賞として表彰しています。2019年度は、以下の4つの作品を表彰し、地域史研究集会において授賞式を行いました。受賞者の皆様からのコメントを紹介します。

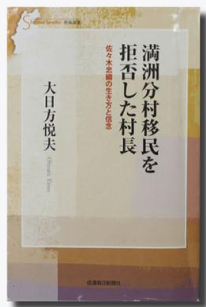
## 歴研賞 著作賞

おびなた えつお  
大日方 悦夫氏

『満洲分村移民を拒否した村長 一佐々木忠綱の生き方と信念』

(信濃毎日新聞社、2018年)

佐々木忠綱の事績に関心を持ち、調査のために初めて阿南町を訪れたのは1993年の初夏のことでした。それから四半世紀、少しずつ調べてきたことを基に、昨年一冊の本にまとめました。幸い、各方面から関心を持っていただき、手にしてくださる方も続いていると聞いています。今回、飯田市歴史研究所から歴研賞のお話をいただきました。飯田・下伊那の歴史を研究するものにとって、歴研賞はなによりの評価であり、励みです。心から感謝致します。戦争期の歴史研究で、戦争によって引き起こされるであろう「悲劇」から、それを未然に防ぎ、あるいは最小限にとどめた「事実」の調査・研究は、ますます必要となっています。今後も、佐々木忠綱に続く、または連なる人々の事績を研究していきたいと思っています。



## 歴研賞 著作賞

中平区誌編纂委員会編

『中平区誌』

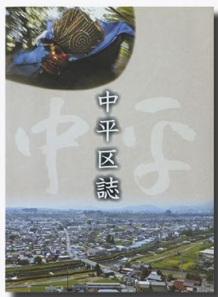
(中平区誌刊行委員会、2019年)

このたびは、「中平区誌」に対しまして、飯田市歴史研究所より「歴研賞2019」を受賞させていただき、中平区並びに区誌編纂委員一同大変名誉に感じております。

この事業は、長野県地域発「元気づくり支援金」を認めていただいたことにより発行することができました。

また、飯田市歴史研究所・鼎自治振興センターを始め、区民の皆さんから多くの写真や投稿、座談会への出席、各戸を廻っての取材に対し快く応じていただいた方々の協力があった賜物と感謝いたしております。

今後この区誌が多くの方々に読まれ、活用していただければ幸いに存じます。



## 歴研賞 著作賞

ほそや とおる  
細谷 亨氏

『日本帝国の膨張・崩壊と満蒙開拓団』

(有志舎、2019年)

私が初めて飯田に調査にやってきたのは、2005年、大学院博士課程2年の夏でした。膨大な史料群の存在に衝撃を受けたことを、今でも鮮明に記憶しています。飯田下伊那地域の史料群は、私の満洲移民研究に革新をもたらしてくれました。とくに、敗戦後の引揚げへの村の対応の分析は、川路村の役場文書と同地区の体験者の方への聞き取り調査なくして不可能でした。

歴史研究所の職員の皆さんをはじめ、地域の方々に支えられた研究成果であり、このたびの受賞であったことをあらためて実感しています。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



## 奨励賞

はやと ますひろ  
速渡 賀大氏

「飯田藩領における借家人の生活形態 一上飯田村・山村を中心に」

(『飯田市歴史研究所年報』第16号、2019年)

この度は、歴研賞・奨励賞をいただき、大変光栄に存じます。振り返れば随分と以前から、ある場所を二つに分かつ「境目」というものに、漠然とした関心を持っていたように思います。そして大学で歴史を学ぶ中において、その境目を越え、行き来する人々の存在に強く惹かれたことが、本研究をまとめるきっかけとなりました。

私の地元である南信州では「三遠信」という言葉をよく耳にします。様々な分野でボーダーレスが叫ばれる昨今、今回の受賞を励みに研究をさらに進めていきたいと考えています。この度は誠にありがとうございました。







田嶋 一

私は、飯田市歴史研究所の開設(2003年12月)に先立って設けられた有識者会議に、教育史研究に携わってきた者として参加し、それ以来、顧問研究員としての立場で歴研の活動にかかわってきました。このような形で当初から歴研の活動に参加できたことは、私にとってとてもありがたいことでした。というのも、生活史、社会史の立場から民間の教育運動や地域社会の子育ての文化、青年の自己形成の歴史などを調査研究してきた私にとって、飯田・下伊那の地域は、その歴史を知れば知るほど、重要なフィールドとなることがわかってきたからです。民衆の自前の子育て文化、職能技術や芸能の伝承、明治初期の小学校の設立やその後の中等教育学校開設の経緯、青年団の運動や自由大学運動、児童自由画運動をはじめとする大正期の新教育運動など、この地域には研究すべき事柄が山積しています。このところ、霜月祭りで有名な遠山郷で、旧木沢小学校の木造校舎保存運動と連携して、この地の教育の歴史の共同研究に参加しています。地域の文化や教育の歴史を、そこに生きた人々の生活の側からきちんと調査研究し、日本社会全体の文化遺産として位置づけ、後世につなげていくことの意義と大切さを、廃校になった小学校の歴史を通して改めて考えさせられています。

近年、公共的空間、公共圏などという言葉をよく耳にします。どのような社会をつくるか、ということを考えるためのキーワードとして使われる場合が多いようです。私は、これからの日本の社会には、新しい時代の「研究と学びの公共圏」をつくりだすことが重要な課題になるだろうと考えているのですが、そのような関心からすると、歴研の活動は、早い時期からこの課題に実践的に取り組んできた稀有の事例だと思います。『飯田市歴史研究所 年報』第1号に載っている田中秀典市長、吉田伸之所長の歴研開所の挨拶文は、日本社会に「研究と学びの公共圏」の創出を図ろうとする、歴史的にみて大変重要な記録です。田中市長は『年報』で、新しい研究所は所員と行政と市民の「協働」によって推進されることになると述べ、また、吉田所長は『歴研ニュース』(第7号)で、歴研は「市民にとっての一つの文化サロン」となることを目指すと述べています(「飯田市歴史研究所開設にあたって」)。市民的公共の出発点は、すべからくここにあると思います。こうして飯田市に出現した新たな公共圏は、今、大きな広がりを見せています。歴研の活動に参加したことによって、日本社会に「研究と学びの公共圏」が生成する過程に、その始まりから現在に至るまで間近に立ち会うことができたのは、何たる僥倖でしょうか。市民と行政に支えられた歴研の活動は、日本の社会のもつ可能性を次の時代に向けて拓いた重要な歴史的経験として、後世に記録されることになるに違いありません。

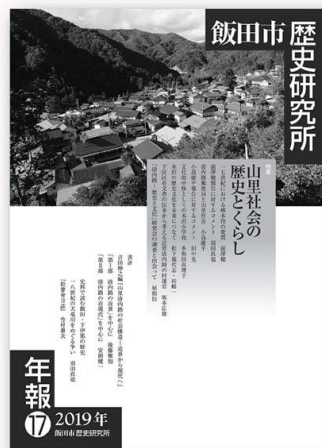
たじま はじめ(國學院大學名誉教授)

新刊  
案内

## 飯田市歴史研究所 年報17

2019年9月 刊行

飯田市歴史研究所 編  
B5判 214頁  
定価1,800円



2018年度の飯田市地域史研究集会では、「山里社会の歴史とくらし」をテーマに、江戸時代以来、飯田・下伊那の山里社会がいかなる特徴をもち、どのような歴史を歩んできたのかについて考えました。特集はその成果をまとめたものです。そのほか、15年にわたる調査の成果をまとめた吉田伸之編『山里清内路の社会構造』(山川出版社、2018年)の書評や、飯田・下伊那における皇紀2600年記念行事、少年農兵隊、天龍社の蚕業技術員に関する調査報告などを掲載しています。ぜひ地域史研究の豊富な成果をお楽しみください。

清内路の社会構造』(山川出版社、2018年)の書評や、飯田・下伊那における皇紀2600年記念行事、少年農兵隊、天龍社の蚕業技術員に関する調査報告などを掲載しています。ぜひ地域史研究の豊富な成果をお楽しみください。

### 【特集】山里社会の歴史とくらし

前澤健 17世紀における樽木役の変質  
小島庸平 清内路郵便局と山里社会  
多和田真理子 文化的中核としての木沢小学校  
松下規代志・田嶋一 木沢の歴史文化を未来につなぐ  
坂本広徳 下区有文書の伝来から考える近世清内路の村運営  
原和信 「清内路—歴史と文化」研究会の調査と出会う

### 【書評】吉田伸之編『山里清内路の社会構造—近世から現代へ』

後藤雅知 「第I部 清内路の近世」を中心に  
安岡健一 「第II部 清内路の近現代」を中心に

### 【調査報告】

齊藤俊江 皇紀二千六百年記念行事と飯田下伊那  
原英章 飯田下伊那の少年農兵隊  
太田仙一 天龍社蚕業技術員の履歴分析 他



## 飯田アカデミア2019第89講座

### 幕末維新期の新吉原遊廓と遊女

**12月14日** 土

第1講 13:30~15:00

新吉原遊廓の構造と幕末期の動揺

第2講 15:20~16:50

遊女屋経営と寺社名目金貸付

**12月15日** 日

第3講 10:00~11:30

新吉原遊廓の動揺

第4講 13:00~14:30

遊女の日記を読む

一幕末期新吉原遊女たちの素顔

講師 **横山 百合子**さん (国立歴史民俗博物館)

会場 **飯田市役所 C棟3階会議室** (飯田市大久保町2534)

資料代 **500円(2日間共通)※高校生以下無料**

※1日のみ、1講義のみでもご参加いただけます。受講をご希望の方は歴史研究所までお申し込みください。当日参加も可能です。

<講師より>

江戸の遊廓や岡場所は、これまで数多くの物語や浮世絵、歌舞伎芝居の題材としてとりあげられてきました。それらは、性の搾取を肯定し、煽情的に、あるいは面白おかしく遊廓を描くものから、胸を打つ恋の悲劇の舞台として遊廓を描くものまでさまざまです。しかし、その歴史の実態はどのようなものだったのでしょうか。この講義では、幕末維新期の新吉原遊廓を素材として、江戸時代の遊廓と遊女の姿にせまってみたいと思います。

講義では、まず、新吉原遊廓とはどのようなところだったのか、またその運営や管理統制はどのように行われていたのかを明らかにします。次に、近世後期に多発する放火や遊女屋経営の動揺の実態、その背景にある遊女たちの生活とその精神世界を、遊女の日記や裁判調書などをもとに検討し、江戸という城下町都市において遊廓がいかなる意味をもっていたのかを考察します。

## 地域史講座



令和元年度文化芸術振興費補助金  
(地域文化遺産総合活用推進事業)

「満蒙開拓団送出と引揚者救済  
—地域に残された史料を手がかりに—」

開催日: **11月30日** 土

時間: **14:00~16:00**

報告者: **細谷 亨**さん (立命館大学)

会場: **川路公民館**

※参加費や事前のお申し込みは必要ありません。お気軽にお越しください。

戦時中には分村移民が日本各地から送り出されました。川路地区の事例を含めて地域における開拓団送出と引揚者救済のあり方を考えます。

## 定例研究会

「近世座光寺村  
如来寺の出開帳」

開催日: **11月16日** 土

時間: **14:00~16:00**

報告者: **羽田 真也**

(歴史研究所研究員)

会場: **歴史研究所 研修室**

## 歴研ゼミ&ワークショップ 10月・11月の予定



### 受講生募集!

スタッフとともに歴史を学んでみませんか。

会場:歴史研究所 研修室

### 近現代史ゼミ

担当:田中雅孝(調査研究員)

10月12日・26日 / 11月9日

(第2・第4土曜日)10:00~11:40

### 地域史ゼミ

担当:太田仙一(研究員)

10月11日・25日 / 11月8日・22日

(第2・第4金曜日)18:30~20:30

### 近世史ゼミ

担当:羽田真也(研究員)

10月23日 / 11月27日

(第4水曜日) 18:30~20:30

### 建築史ゼミ

担当:福村任生(研究員)

10月18日 / 11月15日

(第3金曜日) 18:30~20:30

### 思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

10月2日・16日 / 11月6日・20日

(第1・第3水曜日) 19:00~20:40

### 自分史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

10月26日

(第4土曜日) 13:20~15:00

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL: 0265-53-4670

開所時間:午前9時~午後5時 休所日:日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日